

## 農村工学技術研修の開催

技術移転部技術研修室

### 1. ため池防災・減災技術研修の実施

ため池防災・減災技術研修については、昨年度と同様に Web 形式（eラーニング）で実施しました。

本研修では、ため池決壊時の氾濫解析を行うソフト「SIPOND(エスアイポンド)」を使って氾濫解析を行い、その結果の妥当性と下流域の被災リスク等を検討した上で、GIS ソフトを用いて浸水想定区域図を作成する演習を行い、その結果について講師が助言等を行いました。研修期間は5月18日（月）～22日（金）の5日間とし、研修生の参加人数は38名（国：2名、県20名、土地連16名）でした。研修実施後の研修生からの意見として、「公表されているハザードマップしか見たことがなかったので、実際にシステムにふれて、どのような要件や過程で作成されているか知ることができ、ためになった。」「粗度係数や破堤位置での氾濫結果の違いに驚いた。既存ハザードマップを、実際氾濫が発生した際の被害が正しく想定されているか、といった目線で見ることができるようになった。また、一般市民の方々にハザードマップを届ける上での注意点を知ることができた。」「地形状況を理解している自宅付近のため池を選定し浸水想定区域図を策定し、氾濫解析を行ったが、思っていたよりも遠く自宅に氾濫流が流下することを理解した。解析する前までの“距離があるので大丈夫だろう”程度の考え方が180度変わった。」などがありました。

### 2. 農村工学技術研修（農村防災・減災技術指導者）の実施

6月1日（月）～5日（金）の期間、参加人数12名（県：6名、土地連6名）で実施しました。

研修内容は、農村防災・減災技術に係る講義、ため池決壊時の氾濫解析を行うソフトを使って氾濫解析を行い、浸水想定区域図を作成する演習を行い、その結果をグループ毎にとりまとめ、発表・意見交換を行いました。研修実施後の研修生からの意見として、「堤体外形の簡易測量については、コストもかからずわかりやすく、誰でも実施できる手法であると感じた。」「災害対策支援の流れなど組織内でも共有して活用していきたいと思った。」「氾濫解析を自らすることによってマップの妥当性や実態との乖離を理解する知識を得ることが出来た。」などがありました。

なお、研修内容を即時に活かせるよう研修期間を梅雨等の出水期が本格化する前の6月上旬に実施しました。

### 3. 農村工学技術研修（ダム機能保全Ⅰ）の実施

6月1日（月）～5日（金）の期間、参加人数20名（国：10名、県：10名）で実施しました。研修内容は、土地改良事業におけるダムの定義から始まり、ダム建設に関わる調査・設計・施工等の建設技術や運用に関わる管理規定の考え方について講義を行いました。

本研修は3週間後に開催されるダム機能保全Ⅱ研修と両方に参加する研修生の負担に配慮してオンライン研修としています。



「農村防災・減災技術指導者」研修 講義状況  
(ため池の機能診断および補修・補強技術への開発の取組)



「農村防災・減災技術指導者」研修 実習状況 (ため池の氾濫解析)